

平成12年9月14日

企画調査最終報告書
(平成12年6-9月)

ドミニカ共和国企画調査員

吉井和弘

1. 業務の概要

6月20日から9月14日まで、ラ・レイサ地区開発に関する企画調査を行った。

1) 入植地

ラ・レイサ入植地は次の三つの大きな利点がある：(1)首都サント・ドミンゴに近い、(2)国道沿いにある、(3)送電線がある。これだけの条件の揃った土地を無償譲渡するには、経緯があったとはいえ決断のいることである。ラ・レイサは首都に近いことから、不動産価値が数年のうちに急上昇する可能性がある。

事業地は南端のオサマ川沿いの部分が平坦であるのを除いて、全体に起伏がある。事業地の面積について、大使館が確認している数字は次の通り。

砂糖公団が農地庁に譲渡した面積.....15,500 tareas (969ha)

農地庁が日系移住者に約束した面積.....12,618 tareas (789ha)

日系移住者が入植可能な面積..... 7,390 tareas (462ha)

不足面積.....5,228 tareas (327ha)

入植決定者26家族分.....4,284 tareas (268ha)

日系移住者が入植可能な残り面積.....3,106 tareas (194ha)

面積が不足してきたのは、砂糖公団の土地所有権にクレームがついたためである。10人の地主が現れて計327haの土地の所有権を主張している。

入植決定者26家族の土地268haは、事業地の一角に纏めてある。譲渡面積は1家族当たり5-12haとばらつきがある。移住者に50年前に約束された300haから、過去にすでにもらった分を差し引いた差の面積が譲渡された。平均すると1家族当たり10.3haである。ドミニカ人に与えられる分180haは、オサマ川の南にある。日系移住者が入るところに居づわっている人を、代替地として移動させる予定だという。

大使館によれば、8月8日に農地庁から26軒に仮地権が発行された。これで26軒の農家に、正式に使用権つまり耕作権が認められたことになる。残りの土地譲渡を受ける権利のある46軒の移住者が、土地を受け取る可能性は少ない。46軒の中、10軒は既に受け取り辞退を表明しており、36軒は集団訴訟の原告である。

2) 入植地のコミュニティ

入植地に入り込んだ形で、ラルサ・ブリタとラルサ・ブラカの二つのコミュニティがある。ラ・

レイサ地区は国道サント・ドミンゴーモンテ・プラに沿いに発達した集落である。北限はミホ川、南限はモンテ・プラ県とデ・イスト・ナショナル県の間を流れるオサマ川である。カオ・シリ川を境にして北がラ・ルサ・ブラカ、南がラ・ルサ・プリタである。

ラ・ルサ・プリタの一部に、エル・バティと呼ばれる元サトウキビ労働者のハイチ人の部落がある。また、ラ・ルサ・ブラカからラ・エストレからへの道路の交差点の北には、エル・ラウルという集落がある。エル・ラウルはラ・ルサ・ブラカの一部である。

ラ・レイサ地区の 319 家族(25%)を対象に、アンケート調査を行った農地庁社会開発課の調査員によると、計 1,270 家族がラ・レイサ地区に住んでいると推定される。調査の結果 1 家族平均 5.85 で、ラ・レイサ地区の人口は 7,510 人と推定される。家族平均 5.85 人は、国の家族平均 5.5 人よりいくらか高い。一般的に、貧乏である程子供が多い傾向がある(表 1)。

表 1. ラ・レイサ地区推定家族数と住民総数(2000 年 8 月)

No.	部落	家族数	アンケート調査 対象家族	平均 家族員数	住民総数
1	エル・バティ	120	31	5.91	709
2	ラ・ルサ・プリタ	500	142	5.43	2,715
3	ラ・ルサ・ブラカ	400	104	6.15	2,462
4	エル・ラウル	250	42	6.50	1,625
計		1,270	319	5.85	7,510

(1) 住民

エル・バティ：セントラル・リオ・オサマ製糖工場のサトウキビ切り人夫として、ハイチから来た人とその子孫がほとんどである(95%)。

ラ・ルサ・プリタ：セントラル・リオ・オサマ製糖工場に働いていた、ドミニカ人従業員(人夫監督、トラック運転手、秤番など)のために 70 年代に政府の建てたシャレと呼ばれるコンクリート建ての家に住む人々は、サトウキビとは関係のないいろいろの仕事(農夫、農業、人夫、商売人)をしている。砂糖公団から年金をもらって生活している人もある。

ラ・ルサ・ブラカ：ラ・レイサ地区の社会経済活動の中心である。診療所、学校(小中合せた 8 年生まで)、商店、オサマ協同組合がある。

エル・ラウル：社会経済レベルにおいて、ラ・ルサ・ブラカとラ・ルサ・プリタとの中間に位置する。

日系移住者入植事業に対する意見：ラ・レイサ地区在住の 319 家族(25%)を対象に、日系移住者入植事業に対する意見を聞いた。52%がコミュニティにとってプラスなると答え、10%がコミュニティにとってマイナスになると答え、残りは中立的な立場をとった(表 2)。

コミュニティにとってプラスなると答えた人の中には、日本人が入植して雇用が創出すると期待している者が多い。コミュニティにとってマイナスになると答えた人は、基本的に土地はドミニカ人にやるもので外国人にやるものではないと考えている。

マイナスになると答えた人を減らすには、どうすればよいか。調査員によれば、(1)ほとんどの人、特にラ・ルサ・ブラカとエル・ラウルの人々は、この事業について何も知らないのが現状である。

農地庁社会開発課の協力で、もっと住民に知らせるべきだという。(2)あまりお金をかけずに、日本がコミュニティに目に見える協力を一日も早くしてやる；例えば、風車の井戸ポンプを修繕してやる、といったようなことをやると、この事業に対する住民の理解が深まると思われる。

表2. ラ・ルイスサ地区の家族数と日系移住者入植事業に対する意見(2000年8月)

No.	部落	家族数	アンケート調査 対象家族	ポジティブ	ネガティブ	初トータル
1	エル・バティ	120	31(100%)	12(39%)	0(0%)	19(61%)
2	ラルサ・プリアタ	500	142(100%)	83(58%)	7(5%)	52(37%)
3	ラルサ・ブラカ	400	104(100%)	51(49%)	18(17%)	35(34%)
4	エル・ラケル	250	42(100%)	19(45%)	6(14%)	17(41%)
計		1,270	319(100%)	165(52%)	31(10%)	123(38%)

住民の職業：ラ・ルイスサ地区全体で、農業を職業として答えた人は23%、人夫17%、商売12%、日雇い農夫11%であった。この4つが主な職業である。エル・バティでは、農業と日雇い農夫合わせて69%のほり、農業への依存度が他の部落に比べて高い。エル・バティに次いで、エル・ラケルでは農業への依存度が高い。どの部落にも人夫として都市へ働きにでる人が14-19%ある。その他の職業として運転手、タクシー運転手、料理人などが、どの部落にも8-10%ある。公務員としては、教員、軍人、警察官などが、ラルサ・プリアタとラルサ・ブラカにある(表3)。

表3. ラ・ルイスサ地区住民の職業(2000年8月)

No.	職業	エル・バティ	ラルサ・プリアタ	ラルサ・ブラカ	エル・ラケル	計
1	農業	13(41%)	25(18%)	26(25%)	10(24%)	74(23%)
2	人夫	5(16%)	27(19%)	16(15%)	6(14%)	54(17%)
3	商売	0(0%)	17(12%)	17(16%)	3(7%)	37(12%)
4	日雇い農夫	9(28%)	16(11%)	3(3%)	8(19%)	36(11%)
5	その他	3(9%)	12(8%)	10(10%)	4(10%)	29(9%)
6	公務員	0(0%)	4(3%)	10(10%)	0(0%)	14(4%)
7	家禽	2(6%)	5(4%)	0(0%)	1(2%)	8(3%)
8	行商人	0(0%)	2(1%)	0(0%)	0(0%)	2(1%)
9	回答なし	0(0%)	34(24%)	22(21%)	10(24%)	66(20%)
小計		32(100%)	142(100%)	104(100%)	42(100%)	320(100%)

住民の月収：家族当りの月収をみると、RD\$2,001-3,000ペソが最も多く地区全体で28%を占めた。どの部落でもこの収入レベル以下の人の方が、この収入レベル以上の人より多かった。特にエル・バティでは、RD\$1,000ペソ以下が55%を占めた。ラルサ・ブラカは例外で、RD\$2,001-3,000ペソレベル以下の人の方(32%)が、この収入レベル以上の人(40%)より少なかった。平均月収は全

1 USD ≡ 16ペソ

体で RD\$2, 219ペソ、部落別では最低がエル・バティで RD\$887ペソ、最高はラ・ルサ・ブランカで RD\$2, 736ペソであった(表4)。

表4. ラ・ルサ地区月収レベル別家族数(2000年8月)

No.	月 収(RD\$ペソ)	エル・バティ	ラ・ルサ・ブリアタ	ラ・ルサ・ブランカ	エル・ラウル	家族数の計
1	1,000 以下	17(55%)	28(20%)	16(15%)	10(24%)	71(22%)
2	1,001-2,000	11(35%)	39(27%)	18(17%)	11(26%)	79(25%)
3	2,001-3,000	1(3%)	49(34%)	28(27%)	12(29%)	90(28%)
4	3,001-4,000	0(0%)	8(5%)	24(23%)	6(14%)	38(12%)
5	4,001-5,000	0(0%)	8(5%)	9(9%)	3(7%)	20(6%)
6	5,001-6,000	0(0%)	4(3%)	5(5%)	0(0%)	9(3%)
7	6,001-7,000	0(0%)	2(2%)	1(1%)	0(0%)	3(1%)
8	7,001-8,000	0(0%)	1(1%)	0(0%)	0(0%)	1(0%)
9	8,001-9,000	0(0%)	1(1%)	0(0%)	0(0%)	1(0%)
10	9,001-10,000	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
11	10,000 以上	0(0%)	0(0%)	2(2%)	0(0%)	2(2%)
12	答えなし	2(7%)	2(2%)	1(1%)	0(0%)	5(2%)
	家族数の計	31(100%)	142(100%)	104(100%)	42(100%)	319(100%)
	平均月収(RD\$ペソ)	887	2,183	2,736	2,048	2,219

(2)井戸水の供給

エル・バティ：手押しポンプの井戸が1本あり、エル・バティの住民だけでなく、ラ・ルサ・ブリアタからも水を汲みにくる。あと2本の井戸(風車と手押しポンプ)は破損している。

ラ・ルサ・ブリアタ：コミュニティとNGO「カリバ」が建設した会員制の井戸が4本ある。井戸建設に協力した会員でない人は、水を汲めない。但し、会員が自分の分を他人に譲れば、譲られた人はその分だけ汲むことができる。井戸の建設にあたっては、会員は労働奉仕またはRD\$1, 000. 00ペソを支払った。さらに月 RD\$5. 00ペソの維持費を徴収している。井戸を保護するために小屋が建っている。

利用者の会があり、水の配給利用を管理している。水の配給の番を交代で行っている。月1回会員が集まり、会費を徴収し、井戸の運営について情報を与えている。

ラ・ルサ・ブランカ：井戸が5本ある。

—2本は会員制の井戸である(ラ・ルサ・ブリアタと同じ)。

—診療所には水中ポンプの井戸と水タンクがあり、水道栓2本をコミュニティに提供している。

—チーズ屋に水中ポンプの井戸があり、水道栓1本をコミュニティに提供している。

—水中ポンプの井戸1本があるが個人のものである。

エル・ラウル：2本の会員制の手動ポンプがある。NGO「ローグア」が協力して掘った井戸である。ラ・ルサ・ブリアタと同じシステムである。

ラ・ルサ地区全体で、14本の井戸がある。その内、2本は故障中、1本は完全に個人のものである。11本の井戸が1,270家族7,500人の住民に水を供給していることになる。厳密にいうと、11本の井戸の内8本は会員制のものであって、会員でないと水が汲めない。従って、

3本の井戸のみが誰でも使える井戸である。3本の一つは、エル・パティにある手押しポンプ、残り2本はラルサ・ブ兰卡にある水中ポンプで、一つは診療所、もう一つはチーズ屋のものである(表5)。

井戸水を使っていると答えた人は、ラルサ・ブ兰卡では32%、他の部落では90%以上であった。エル・パティには公共井戸がある。ラルサ・プリタとエル・ラウルには会員制の井戸しかないが、会員の分を譲ってもらったりして、井戸水を使っている。ラルサ・ブ兰卡では、個人主義が強く会員だけに限定する傾向がある。診療所とチーズ屋の水中ポンプは、停電があると使えない(表6)。

表5. ラ・レイサ地区の井戸の分布(2000年8月)

部落	公共井戸 故障中	公共井戸 手動 ポンプ	公共井戸 水中 ポンプ	会員制井戸 手動 ポンプ	個人井戸 水中 ポンプ	計
エル・パティ	2	1				3
ラルサ・プリタ				4		4
ラルサ・ブ兰卡			2	2	1	5
エル・ラウル				2		2
計	2	1	2	8	1	14

表6. ラ・レイサ地区の水供給(2000年8月)

No.	水供給源	エル・パティ	ラルサ・プリタ	ラルサ・ブ兰卡	エル・ラウル	家族数の計
1	井戸	29(94%)	131(92%)	33(32%)	40(95%)	233(73%)
2	水道	0(0%)	54(38%)	6(6%)	10(24%)	70(22%)
3	泉	0(0%)	0(0%)	1(1%)	0(0%)	1(0%)
	アンケート家族数	31(100%)	142(100%)	104(100%)	42(100%)	319(100%)

(3) 水道水の供給

エル・パティ：水道設備はない。

ラルサ・プリタ：国道沿いのいくつかの家とシャと呼ばれる97軒のコンクリートの家には水道設備がある。水はほとんど出なく月に一度来る程度で、水は汚い。サント・ドミンゴからモンテ・ブ兰卡に向かう国道の左側に、上下水道院(INAPA)のタンクがある。

ラルサ・ブ兰卡：国道沿いのいくつかの家には水道設備がある。

エル・ラウル：国道沿いのいくつかの家には水道設備があり、水道栓があるが一月または二ヶ月に一回水が出る。水質は悪い。

アンケート調査から、水道設備はラルサ・プリタ(38%)に集中しており、続いてエル・ラウル(24%)に多く、ラルサ・ブ兰卡(6%)では比較的少ない(表6)。尚、泉は小さなものがラルサ・ブ兰卡にあるのみである。

(4) 住宅

エル・パティ：住宅の建設には二つのフェーズがある。

第1フェーズ:

セントラル・リオ・サント・マテオ製糖工場が建設した家が、1998年のハリケーン・ジョージで全壊された。

第2フェーズ:

このコミュニティの住民は、破壊の残骸の材料を利用して誰の助けも借りずに住宅を再建した。

ラルサ・プリア: エル・バティに比べて住宅はよい。ほとんどの家は、ブロックやセメント、残りは木造、トタン屋根で、よい家もあれば、悪い家もある。家の中にトイレのある家はない。いくつかの家には屋外便所がある。

ラルサ・ブラカ: シャレーを除いて、ラルサ・プリアの状況に似ている。

エル・ラウル: サント・ドミンゴからモンテ・プラタに至る国道沿いの住宅事情は、ラルサ・ブラカと同じである。しかし国道から離れて奥にはいると、ラルサ・ブラカやラルサ・プリアより貧しい家がある。

(5) 保健

エル・バティ: このコミュニティには保健サービスのインフラがない。住民はラルサ・ブラカにある厚生省の診療所について簡易の処置を受け、そこからモンテ・プラタやサント・ドミンゴの病院に移される。

現在ほとんどの家には屋外便所がない。いくつかの家族が一つの便所を共有しており、その便所は悪い状態である。

ラルサ・プリア: エル・バティと同じ状況。

ラルサ・ブラカ: 診療所があり医者が1名いる。医者はサント・ドミンゴやモンテ・プラタの専門医に患者を紹介する。

エル・ラウル: エル・バティと同じ。

(6) 学校

エル・バティ: このコミュニティには、シャレーと呼ばれる家に小さな学校がある。小学校3年生まである。この学校はラルサ・プリアの新しい学校に移動する。

ラルサ・プリア: 4教室ある新しい学校が、プロ・コミュニティによって建設された。小学校6年生まである。

ラルサ・ブラカ: このコミュニティには、8年生までの小中学校がある。

エル・ラウル: プロ・コミュニティが建設した2教室の学校がある。小学校5年生まである。この学校には便所があるのみで、他のサービス（水、電気、運動場）はない(表7)。

表7. ラ・ルイスサ地区の学校設備(2000年8月)

部落	学年	教室	用水タンク	井戸	電気	発電機	運動場
ラルサ・プリア	1-6	3	1	なし	あり	なし	なし
ラルサ・ブラカ	1-8	6	0	なし	あり	なし	あり
エル・ラウル	1-5	2	0	なし	なし	なし	なし

(7) 農業

エル・バティ: 自給用に家の小さな庭でいろいろなものをつくる。

ラルサ・プリア: モンテ・プラタ入植地やラ・エストレ入植地の入植者が数人いる。入植地の面積は、50-70ヘクタールの水田、100ヘクタール以上の畑作である。

ほとんどの家では、4-10ヘクタールの土地があり農業をやったり、鶏、アヒル、豚など飼っている。
ラ・ルイサ・プレンカ：ラ・ルイサ・プレンカよりも入植事業の入植者が多い。他の面においては、他のコミュニティと似ている。

エル・ラウル：この農村コミュニティでは、自給自足の農業で5-10ヘクタールの小さな土地をガユリョと呼ばれる5-7 km離れたところに持っている。

所有土地面積：小面積でも土地を持っていると答えた人は33%で、農業を職業として答えた人23%よりはるかに多い。土地面積が小さくて、農業を職業とみなさない人が多いことが伺える。

1戸当りの所有土地面積をみると、2.1-5.0ヘクタールが最も多くエル・バティでは29%、ラ・ルイサ・プレンカとエル・ラウルでは12%であった。ラ・ルイサ・プレンカは例外で、50-250ヘクタールを持っている農家が半分以上を占めた(表8)。

表8. ラ・ルイサ地区の所有土地面積の大きさ別の農家数(2000年8月)

No	所有土地面積(ヘクタール) 0.06 1917 m ² / 6 ha	エル・バティ	ラ・ルイサ・プレンカ	ラ・ルイサ・プレンカ	エル・ラウル	農家数計
1	2.0以下	1(3%)	6(4%)	2(2%)	2(5%)	11(4%)
2	2.1-5.0	9(29%)	17(12%)	0(0%)	5(12%)	31(10%)
3	5.1-10.0	5(16%)	4(3%)	1(1%)	3(7%)	13(4%)
4	10.1-20.0	2(7%)	8(6%)	3(3%)	2(5%)	15(5%)
5	20.1-30.0	1(3%)	2(1%)	2(2%)	1(2%)	6(2%)
6	30.1-40.0	0(0%)	0(0%)	3(3%)	1(2%)	4(1%)
7	40.1-50.0	0(0%)	2(1%)	0(0%)	1(2%)	3(1%)
8	50.1-75.0	0(0%)	3(2%)	5(5%)	1(2%)	9(3%)
9	75.1-100.0	0(0%)	2(1%)	5(5%)	0(0%)	7(2%)
10	100.1-150.0	0(0%)	0(0%)	2(2%)	0(0%)	2(1%)
11	150.1-200.0	0(0%)	0(0%)	1(1%)	0(0%)	1(0%)
12	200.1-250.0	0(0%)	0(0%)	1(1%)	0(0%)	1(0%)
13	250.1-300.0	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(2%)	1(0%)
14	300.1-400.0	0(0%)	1(1%)	0(0%)	0(0%)	1(0%)
15	農家数計	18(58%)	45(31%)	25(24%)	17(40%)	105(33%)
	アンケート調査対象戸数	31(100%)	142(100%)	104(100%)	42(100%)	319(100%)
	平均所有土地面積(ヘクタール)	4.1	7.8	16.8	12.8	11.0

栽培作物：よく栽培される作物として、キャッサバ、^{ネーブル}カンズル、さつま芋をあげることができる。せいぜい1-4ヘクタールの面積で、主として自家消費用である。ラ・ルイサ・プレンカは例外で、面積が6-20ヘクタールと比較的広く、販売を主としている。

ラ・エストレ入植地で水田50ヘクタール以上を持っている農家が、ラ・ルイサ・プレンカに1軒、ラ・ルイサ・プレンカに7軒あった。また、75-289ヘクタールの牧場をもっている農家が4軒あった。その他の作物として、プラタノ、パッション・フルーツ、トロコシナス、カボチャ、パイナップルを小面積で数軒が栽培している(表9)。

表9. ラ・ルイサ地区の主な栽培作物(2000年8月)

No	作物		エル・バティ	ラルサ・プリエタ	ラルサ・ブラカ	エル・ラウル	計
1	キャッサバ	栽培農家数	14	28	16	13	71
		平均栽培面積(ヘア)	2.5	3.6	19.6	3.1	6.9
2	ガズル	栽培農家数	10	26	11	6	53
		平均栽培面積(ヘア)	2.4	3.9	19.5	1.3	6.5
3	さつま芋	栽培農家数	8	16	7	8	39
		平均栽培面積(ヘア)	2.1	2.3	6.1	1.3	2.7
4	米	栽培農家数	3	1	8	0	12
		平均栽培面積(ヘア)	4.3	50.0	53.1	0.0	40.7
5	牧草	栽培農家数	0	1	1	2	4
		平均栽培面積(ヘア)	0.0	75.0	289.0	135.0	158.5
6	ブラタ	栽培農家数	0	2	5	0	7
		平均栽培面積(ヘア)	0.0	3.0	16.6	0.0	12.7

農産物のゆくえ：農産物を自給、販売両用に使っている農家が、どの部落でも最も多かった。エル・バティ、ラルサ・プリエタ、エル・ラウルでは、自給のみの方が販売だけより多かった。これは小面積の農家が多いことを反映している。しかし、ラルサ・ブラカでは自給用のみと販売用のみとが半々に分かれた(表10)。

家禽と家畜：よく飼われている家禽は鶏で、4割近くの家で飼われている。家畜では牛、豚、馬が多い(表11)。

表10. ラ・ルイサ地区の農産物のゆくえ(2000年8月)

No		エル・バティ	ラルサ・プリエタ	ラルサ・ブラカ	エル・ラウル	農家数計
1	自給	5(16%)	14(10%)	8(8%)	10(24%)	37(12%)
2	自給・販売	15(48%)	25(18%)	13(13%)	5(12%)	58(18%)
3	販売	3(10%)	3(2%)	8(8%)	2(5%)	16(5%)
	アンケート調査家族計	31(100%)	142(100%)	104(100%)	42(100%)	319(100%)

表11. ラ・ルイサ地区の家禽と家畜(2000年8月)

No.	家禽 家畜		エル・バティ	ラ・ルイサ・ プリア	ラ・ルイサ・ ブラカ	エル・ラウル	計
1	鶏	家族数	16	64	30	14	124
		家族当り平均羽数	5.8	7.5	9.6	10.1	8.1
2	牛	家族数	12	14	9	6	41
		家族当り平均頭数	4.8	7.5	9.7	3.6	6.7
3	豚	家族数	16	35	21	4	76
		家族当り平均匹数	2.6	2.3	3.3	1.0	2.6
4	馬	家族数	1	16	5	8	30
		家族当り平均頭数	3.0	1.6	3.0	1.8	1.9

3) 入植者

ドミニカ共和国の日系移住者は計226家族863名である。そのうち農業自営者は53名(24%)で、農家の高齢化と後継者不足が問題である。その他、農業外自営者が55名(24%)、給与所得者40名(18%)となっている。日系移住者の丁度半分が、サント・ドミンゴ地区に在住している。

ラ・ルイサ地区に入植を決定した26家族のうち、丁度半分の13家族がサント・ドミンゴ市に在住している。農業を営んでいるのは7家族(27%)で、サント・ドミンゴ市在住のものではなく、ラ・ルイサ地区に最も近い人で80km離れた所に住んでいる。

4) 営農計画

(1) 入植者アンケート調査

26軒の入植予定者を対象にアンケート調査を実施した。14軒から回答を得た(回収率54%)。解答者の2軒が農業自営者、8軒が非農業自営者、2軒が給与所得者であった。

非農業自営者と給与所得者の3軒がしばらく入植するつもりはなく、土地を貸してもよいと考えているのみで、残りは何かを植えてみたいと考えている。土地を売却してもよいと考えている人はいなかった。農業自営者とそれ以外の人ともに、果樹をやってみたい者と畜産をやってみたい者の約半分づつに分かれた。

いつ入植つもりかという問いに対して、多くの人は柵ができてからと答えた。これは、現在入植地に牛や馬が放牧されているという事情を反映している。入植地に家を建てて住むつもりの人はいない。ほとんどの人は通勤で農業をやり、入植地に家を建ててもせいぜい管理人を住まわせることを考えている。

農業自営者は、ラ・ルイサ入植地を第2の生産地として考えているのに対して、非農業自営者と給与所得者は、第1の生産地として考えている。

(2) 展示圃場

入植決定者26家族分268haの土壌は、ドミニカ農牧企業社(JAD社)の調査によるとラ・ルイサでは一番よい第3類土壌である。単年作物も永年作物もできる。

果樹作物の展示圃場を入植地につくるべく、農牧開発南部センター(CESDA)とのコンタクト

トを開始した。CESDAはドミニカ共和国最大の農事試験場で、JICAの果樹のミニプロジェクトが1993-1996年に実施された。

7月19日農地宁技術者がCESDAの所長と果樹研究員計7名を事業地に案内し、展示圃場の設置場所と果樹の種類を検討した。展示圃場は国道沿いのロット59番の入り口、北端のなだらかな傾斜に設置することにした。果樹の種類は、(1)パッション・フルーツ、(2)レモン、(3)ガヤバ、(4)サポテ、(5)サクランボの5種類を、それぞれ4クア(0.25ha)ずつ植えることにした。

展示圃場に加えて、観察圃場として(1)マンゴ、(2)ガナバナ、(3)ハグア、(4)ニスペロ、(5)リモンシヨの5種類を、それぞれ1クア(0.06ha)ずつ植える。さらに、導入種(1)ププアス、(2)アサイ、(3)マンゴスチンの3種類をそれぞれ1列ずつの植える。導入種の種はブラジルから輸入することは困難なので、国内の機関、例えばFundación Progresoから入手するものとする。

展示圃場、観察圃場、導入種を含めた圃場の大きさは34クア(2.1ha)である。長さ240m x 幅81mに6mの道をつけて、長さ240m x 幅87mの圃場とする。サトウキビが長く栽培されていた土地である。サトウキビの根が土壌表面をはびこっているので、まず深く耕す必要がある。農務省モンテ・プラタ支局農業機械サービス計画(PROSEMA) Radamés Cruz 課長に110馬力のトラクターを依頼した。

モンテ・プラタは牧畜地帯である。深く耕す農機具はない。サブソイラーは手に入れることができなかった。土壌を深く耕して裏がやす大型ディスクですら、容易に手に入らなかった。農地宁モンテ・プラタ支局Sixto Antonio Leyba 支局長の協力でアン・サチェン入植地Luis Espinal 代表から、28インチの大型ディスクを借りることができた。そして8月29日に耕起した。

アン・サチェン入植地は、ラ・ルイス入植地と同じく元サトウキビ畑を農地に転換している事業である。Leyba 支局長は、ラ・ルイス入植地での果樹展示圃場に関心を示した。農地宁の他の入植地、特に元サトウキビ畑を農地に転換している事業地に役立つからである。

9月9日トラクターによる整地を行って、柵を作り移植の準備が整った。9月13日CESDA 所長Patricio Cruzと果樹技術者と、今後の苗植付けのスケジュールについて打ち合わせを行った。

(3)果樹の収益性調査

前述の展示圃場では、次の五つの果樹を栽培する：

- 1) パッション・フルーツ
- 2) レモン
- 3) ガヤバ
- 4) サポテ
- 5) サクランボ

この5つの果樹の収益性を調査するためのTRを作成した。そして、3社からプロポーザルを提出させた。

- (1) ドミニカ農業企業連合社(Junta Agroempresarial Dominicana, Inc.-JAD)

RD \$500,000.00ペソ (\$33,333.00ドル)。

プロポーザルの内容が要約されているので、詳しい方法はよく分からない。
値段が相場以上と思われる。

- [2] 経済社会調査専門組織(Organización Profesional para la Investigación Económica y Social-OPINES)

RD\$250,800.00(\$16,720.00)

方法が説明されていて、よいプロポーサルである。文書の誤りがある。

- [3] 農牧技術&工学(TECNOLOGIA AGROPECUARIA E INGENIERIA-TEAGROING)

RD\$230,500.00(\$16,370.00)

方法が具体的に説明されていて分かりやすい。文書に誤りがあるが、内容といい、値段といい3つのプロポーサルのうちで一番よいと思われる。

